

**寄贈資料**

(平成9年10月～平成11年3月の分を掲載)  
大勢の方々から歴史・民俗資料の寄贈がありました。ありがとうございました。

大正時代マント1、蚊帳1 (伊藤修様) 押絵びな6 (小林幸平様) 太平洋戦争憲兵用マント1 (三間清子様) 縄ない機1、わらじ(満沢博様) 牛の鞍1 (唐沢幸男様) 台所用具ほか民具50 (柴田せつ子様) 唐箕1 (井口積様) 羽織・袴17、たんす2、台所用具多数 (吉沢徳保様) 信濃全国通用銭札「百文」1 (山田正人様) 万石1、唐箕1 (藤木重男様) 古典籍類多数、火鉢10、



江戸時代高札1 (新井信三様) 筑摩県高札1、古書多数、長持ほか民具多数 (高坂千枝子様) 袴1 (松村昭様) 古瀬戸灰釉四耳壺(写真)ほか陶磁器11 (河野通昭様) 羽織1 (那須野光雄様) 「葵御紋」長押飾り1 (矢沢信夫様) 煙草盆2 (工藤茂美様)

**<良書紹介>**



西沢淳男著  
「幕領陣屋と代官支配」  
岩田書院 7900円(税別)

飯島陣屋に関係した記述も豊富。パソコンを使う方には、付録としてCD-ROM「幕領代官・陣屋データベース」(Windows95/98/NT版)がついていて便利です。

**来館者の声**

「お白州や、お代官様の席には、等身大の人形を置けばいいのに…」

いやいや、見学される方ご自身に座っていただきたいでござる。代官や、村人の目線で江戸時代の気分を味わうがよいぞ。なんなら、かみしもとかつらもお貸し申そう。記念撮影もOKじゃ。はっはっはっ。

「祝日に来たら、門が閉まっていた見学できなかった。遠くからわざわざ来たんだぞ。」

申し訳ないでござる。これまでは、祝日が休館でござった。ご要望が多いので、平成11年度からは祝日を開館いたすでござる。詳しくは、下のカレンダーを参考にしてくださいませ。

「感激しました。いろいろのけむりの懐かしさ。本当に火を焚いているいろいろは、近頃見たことなかったです。」

うむ。年配の方には懐かしく、若い方には新鮮ないろいろ。けむりのにおいやほのぼのとした暖かさを、体で感じていただきたいでござる。机の上の勉強ではわからないことござるよ。

「一人で来たのに案内してくれて、ありがとう。」

飯島陣屋では、昔の雰囲気壊したくないゆえ、説明板を少なくしてござる。その代わり、来館者お一人からでも案内係がつくのじゃ。

拙者は代官の装束之助(みの・かさのすけ)でございます。皆様の声に拙者がお答えするつもりです。



# 飯島陣屋だより

No. 9

1999. 3

発行/飯島町歴史民俗資料館 〒399-3702長野県上伊那郡飯島町飯島2309-1 ☎0265-86-4212

## お陣屋トピックス 平成10年～11年3月の主な行事・活動報告

### 飯島陣屋開館5周年記念 「信濃の天領陣屋パネル展」開催



平成10年9月から11月、開館5周年記念のパネル展が開催されました(写真①)。9月23日には、樋口和雄先生による講演会(写真②)がおこなわれ、代官行列を楽しむ会による歴史寸劇(写真③)も披露されました。



### 飯島小3年生「カルタ&餅焼き会」

平成11年1月、飯島小学校の3年生が授業の一環として飯島陣屋を訪れました。見学後、お代官様の部屋でカルタ(写真④)をし、いろいろで餅を焼いて食べ(写真⑤)、昔の雰囲気を満喫しました。



### 飯島陣屋ブックレット新刊が出版 「信濃の天領陣屋」(平成10年3月刊)



江戸時代中期以降、信濃国の約3割は天領(幕府領)でした。この天領を支配した幕府代官の陣屋は、信濃国内に35ヶ所あったことが確認されています。本書では、それらの陣屋がどこに置かれ、そこを中心としたどのような施策が展開されたのかを、わかりやすくまとめました。

### 「陣屋があった江戸時代」

(最新刊、平成11年3月刊)



江戸時代、ご先祖さまはどんな暮らしをしていたんだろう…。小学4年生の飯島陣屋くんの素朴な疑問に、お父さんが次々と答えていきます。小学生から大人の方まで、陣屋があった時代=江戸時代の様子を楽しく理解できます。

### 飯島町歴史民俗資料館のクラブ活動

飯島町歴史民俗資料館のクラブ活動として、平成10年1月から「わらじクラブ」(写真⑥)を、平成10年6月から「古文書クラブ」(写真⑦)をはじめました。肩ひじ張らず、和気あいあいと学ぶクラブです。



わらじクラブ～昔は誰もが当たり前にやっていたわらじづくり。しかし、今では作れる人も少なくなりました。このクラブでは、技術の継承を目標に、陣屋のいろいろばたで、各種のわら細工の技術を学んでいます。



古文書クラブ～古文書を読んでみたいという方々が集まって、陣屋記念館で毎月1回学習会を開いています。

## 平成11年度 飯島陣屋カレンダー (1999.4～2000.3) ○が休館日

平成11 (1999) 4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	⑤	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	15	16	17
18	⑰	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	⑤	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	15	16	17
18	⑰	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	④	5	6	7	8	9
10	11	⑫	⑬	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

平成12 (2000) 1月

日	月	火	水	木	金	土
						①
②	③	④	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	⑰	⑱	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	⑳					

5月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	⑰	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	⑳					

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	②	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
		①	2	3	④	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	⑭	⑮	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29				

6月

日	月	火	水	木	金	土
		①	②	③	④	5
6	7	8	9	10	11	12
13	⑭	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	⑥	7	8	9	10	11
12	⑬	14	15	⑮	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	⑥	7	8	9	10	11
12	⑬	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	⑳	31

3月

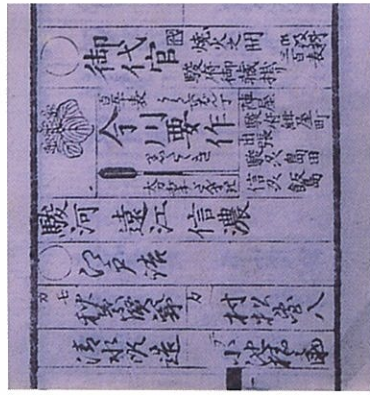
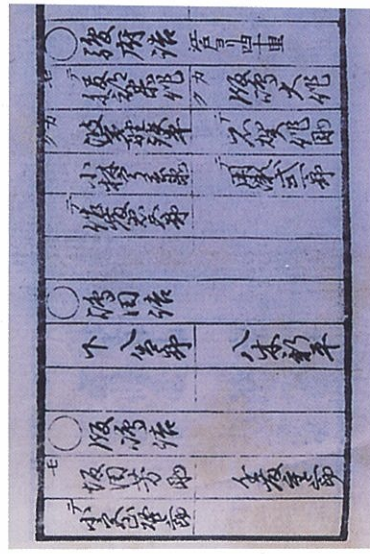
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	⑥	7	8	9	10	11
12	⑬	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



①文久元年 (1861)

『県令集覧』

左は表紙。  
右下の写真には、飯島代官を勤めた今川要作の名がみえ、左下では、飯島詰めの役人がわかる。



# 新収蔵資料

①文久元年 (1861) 『県令集覧』

全国の幕府領の役人構成を知るための基本資料。飯島陣屋については、代官今川要作の項に、「陣屋 駿府紺屋町、出張 駿州飯島・信州飯島」と記されている(駿府紺屋町陣屋は静岡市、島田陣屋は島田市)。また、各陣屋に配属された役人名が記され、飯島詰めの役人は元締手代の坂田芳助、手代の近藤重三郎、手付の小宮山啓三郎の3人がいたことがわかる。

②幕末の飯島陣屋支配村と伊那郡の松本藩預かり地絵図

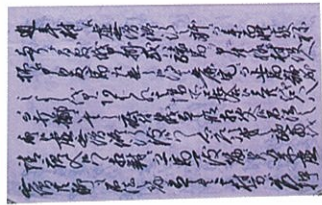
飯島陣屋が管轄していた伊那郡の幕府領村々の内には、幕末になって松本藩の預かり地へ移管された村々があった。この絵図は、これらを色分けして示したものである。飯島管下の村々は、従来から陣屋の運営費などを共同で負担しており、「村の数が減ると1村あたりの負担が大きくなって難渋する」と訴え出たときにこの絵図が添えられた。

③天保14年 (1843) 七久保村耕地絵図

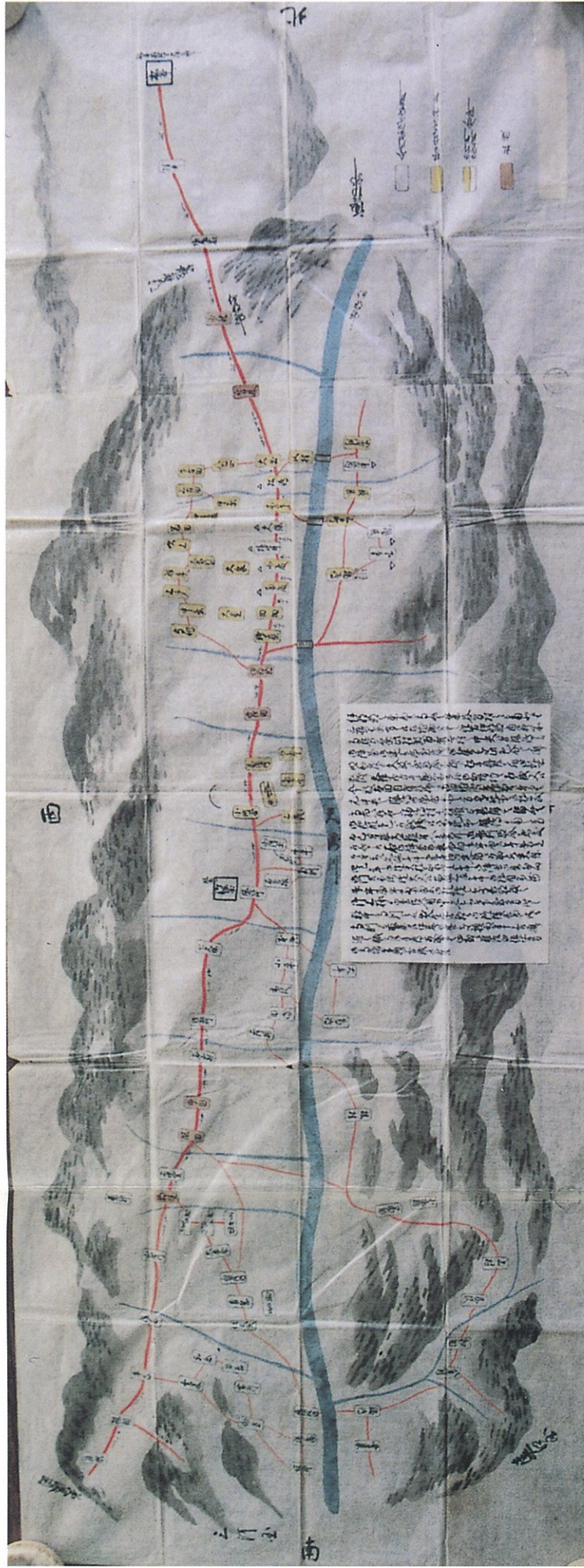
天保の改革の中で、幕府は年貢増徴を目的して勘定方の役人による村々の見分を計画した。この計画を受けて、飯島陣屋では事前に村々に触れを回し、田知などの現況を記した帳面のほか、耕地を中心に描いた絵図面の提出を命じた。本絵図は、これによって差し出された絵図で、平成10年度に収蔵した58か村の絵図の中の1枚である。

④安永3年 (1774) 高札

幕府からの触れを高札にして、村の高札場に掲げた。傷んでいて文字の判読が難しいが、別の古文書によって内容を知ることができる。不法なふるまいをすする遍歴の虚無僧・浪人・修験者などがいたら捕らえて召し出すこと、など記されている。



④安永3年 (1774) 高札 左の写真は、高札の内容がわかる古文書 (七久保区有文書)



②(上) 幕末の飯島陣屋支配村と伊那郡の松本藩預かり地絵図

③(下) 天保14年(1843)七久保村耕地絵図

